もくじ

付録 111

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠ 危 険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠ 警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠ 注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「　」 他のマニュアルへの参照の場合 …『　』 オンラインマニュアル、できるdynabookへの参照の場合 …《　》 オンラインマニュアルにはさまざまな情報が記載されています。

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム　特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP　特に説明がない場合は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版を示します。

MS-IME　Microsoft® IME 2003／ナチュラル インプット 2003を示します。

オンラインマニュアル
パソコン上で見ることのできる、電子マニュアルを示します。
デスクトップ上の［オンラインマニュアル］アイコンをダブルクリックして起動します。

ドライブ　DVDスーパーマルチドライブを示します。

参照 詳細について「1章 3 ドライブ」

フロッピーディスクドライブ同梱モデル
USB接続タイプのフロッピーディスクドライブが同梱されているモデルを示します。

参照 詳細について
「3章 2 フロッピーディスクドライブを接続する」

記載について

・記載内容には、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。
・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや同梱のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、Pentium、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標、または登録商標です。
- BeatJamは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- BeatJamは、株式会社ジャストシステムの著作物であり、BeatJamにかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- i.LINK は商標です。
- Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- LaLaVoice、ConfigFree は株式会社東芝の登録商標です。
- Symantec、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
  Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
- McAfee、マカフィーは米国法人McAfee,Inc.またはその関係会社の登録商標です。
- InterVideo、WinDVD、WinDVD Creator は InterVideo, Inc. の登録商標または商標です。
- Sonic RecordNow!は Sonic Solutions の登録商標です。
- 「できる」は、株式会社インプレスの登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジについて

次の３つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジ搭載と呼びます。

- インテル Pentium M プロセッサ
- モバイル インテル 915 Express チップセット・ファミリまたはインテル 855 チップセット・ファミリ
- インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

・周辺機器を接続して本製品を使用する場合
・AC アダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
・本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
　目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
・目安として、気温５～30℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0120-97-1048＊にお問い合わせください。

＊ 2005 年９月 13 日（火）から。2005 年９月 12 日（月）までは 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
・Windows のシステムツールまたは『困ったときは』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
・本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線 LAN の暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

参照 詳細について『さあ始めよう 5 章 3 お客様登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

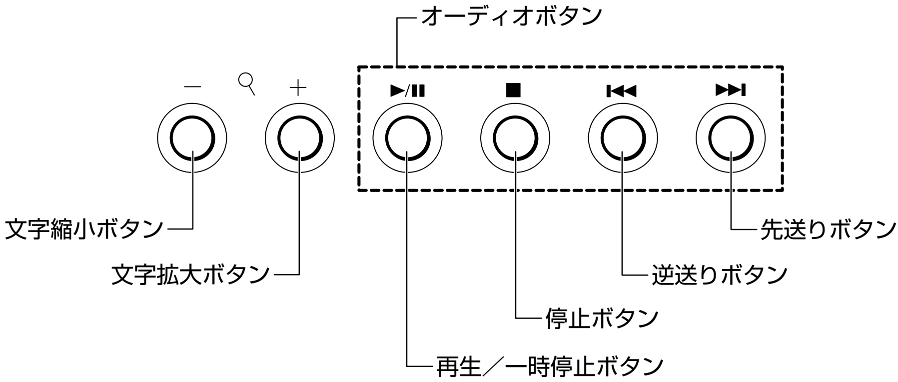
1章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

1 ボタン

音楽CDやDVD、音楽ファイルを再生するときに、オーディオボタンを使って操作することができます。
また、画面やアイコンなどが表示される大きさを変更したいときは、文字縮小ボタン、文字拡大ボタンを使用すると便利です。



それぞれのボタンの機能は、次のようになっています。

【 再生／一時停止ボタン 】

再生または一時停止を行います。
使用するアプリケーションが起動していない場合、ドライブにセットされているメディアをチェックして、アプリケーションを起動し、再生を行います。
次のアプリケーションが起動します。

ドライブにDVD-Videoがセットされている場合 ：「InterVideo WinDVD」
ドライブにDVD-Video以外がセットされている、
または何もセットされていない場合 ：「BeatJam」または「Windows Media Player」

アプリケーションは、「東芝コントロール」で変更できます。

参照 《オンラインマニュアル（検索）：ボタンに割り当てるアプリケーションを変更する》

【 停止ボタン 】

再生を停止します。

【 逆送りボタン 】

再生するトラック／チャプタを1つ戻します。

【 先送りボタン 】

再生するトラック／チャプタを 1 つ進めます。

【 文字縮小ボタン 】

画面やアイコンなどを縮小します。
ボタンの設定は、「東芝コントロール」で変更できます。

【 文字拡大ボタン 】

画面やアイコンなどを拡大します。
ボタンの設定は、「東芝コントロール」で変更できます。

2 ディスプレイ

本製品には表示装置としてTFT方式カラー液晶ディスプレイ（1024×768ドット）が内蔵されています。ドットは画素数を表します。
テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 テレビの接続について
「3章5 テレビを接続する」

参照 外部ディスプレイの接続について
「3章6 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFTカラー液晶ディスプレイは、非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの表示（画素）が存在することがありますが故障ではありません。あらかじめご了承ください。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は8段階で設定できます。初期状態では、最高輝度に設定されています。
明るさを変えたい場合は、次の方法でお好みの明るさに調整してください。

【 輝度の調整方法 】

FN+F6 ： FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。

FN+F7 ： FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。

2 時間帯で壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使用するには、あらかじめデスクトップの壁紙を［dynabookFun 壁紙］に設定する必要があります。［dynabookFun 壁紙］や「くるくる壁紙チェンジャー」の設定方法については、「くるくる壁紙チェンジャー」のヘルプをご覧ください。

起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［くるくる壁紙チェンジャー］をクリックする

ヘルプの起動方法

1 「くるくる壁紙チェンジャー」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする

お願い 液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

残像防止について

長時間同じ画面を表示したままにしていると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残ることがあります。この現象を残像といいます。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると画像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使いかたは避けてください。
また、次の機能を利用すると、残像防止ができます。

- スクリーンセーバーを設定する

  参照 スクリーンセーバーの設定 『ヘルプとサポート センター』

- 「東芝省電力」で「モニタの電源を切る」を設定する

  参照 東芝省電力 《オンラインマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

3 ドライブ

本製品には、DVD スーパーマルチドライブ が 1 台内蔵されています。

ドライブには次のマークが入っています。

＊ マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R＊、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROM の読み出し機能を搭載したドライブです。

＊ 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けてある場合を除き、DVD+R DL（Double Layer 対応）を含みます。

『安心してお使いいただくために』に、CD ／ DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD ／ DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- DVD-Video の再生は Region（リージョン）コード「2」、「ALL」のものをご使用ください。

1 使用できるメディアと対応するアプリケーション

お願い

書き込み中は、シャットダウン、ログオフ、スタンバイなどを実行しないでください。

書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。

- RecordNow!（レコードナウ）

参照 『図解で読むマニュアル
オリジナル音楽CDを作る／データCD／DVDを作る』
『困ったときは 2章 3 CD／DVDにデータのバックアップをとる』

- DLA（ディーエルエー）

参照 『図解で読むマニュアル データをCD／DVDにコピーする』
《オンラインマニュアル（検索）：データをCD/DVDにコピーしたい》

- WinDVD Creator 2 Platinum（ウィンディーブイディークリエイター プラチナム）

参照 『図解で読むマニュアル 映像を編集してDVDに残す』
「InterVideo WinDVD Creator 2 Platinum」のヘルプ

メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

1 使用できるメディア

○：使用できる　×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
読み出し	○	○	○＊1	○＊3	○＊1	○＊1	○＊1
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能＊2	1回	1回	繰り返し書換可能＊2	繰り返し書換可能＊2	繰り返し書換可能＊2

＊1　使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。
＊2　実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊3　メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。また追記したデータは読み出しできません。

2 アプリケーションと書き込み可能なメディア

○：使用できる　×：使用できない

【 RecordNow! 】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○＊1	○＊1	○＊1	○＊1	×

＊1 DVD-Video、DVD-Audio の作成はできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。

【 DLA 】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	○＊1	×	×	○＊1	○＊1	×

＊1 CD-RW、DVD-RW、DVD+RW を「DLA」で使用するには、あらかじめフォーマットが必要です。

【 WinDVD Creator 2 Platinum 】

「WinDVD Creator 2 Platinum」には、「プロジェクトモード」と「ディスクマネージャ」の 2 つのモードがあります。各モードで使用できるフォーマット（映像を書き込むときの記録形式）が異なります。

プロジェクトモード	DVD-Video フォーマット
ディスクマネージャ	DVD-Video フォーマット、-VR フォーマット、+VR フォーマット

モードとフォーマットによって、書き込みできるメディアの種類が異なります。

プロジェクトモード(DVD-Video フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	○	○＊1	○	○	○＊2

＊1 DVD+R DL に書き込んだ場合、書き込みを行ったパソコンにインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。
＊2 DVD-Video フォーマットで記録された DVD-RAM は、本製品にインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。

ディスクマネージャ(DVD-Video フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	○＊1	×	×

＊1 再生するためには、ファイナライズを行ってください。
ディスクマネージャで作成したメディアのみ、追記、再編集が可能です。

ディスクマネージャ(-VR フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	×	×	○

ディスクマネージャ(+VR フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD+R	DVD-RW	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	×	○＊1	×

＊1 ディスクマネージャで作成したメディアのみ、追記、再編集が可能です。

【 ［マイコンピュータ］上で書き込む場合 】

［マイコンピュータ］で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーすると、パソコンで作成した文書データなどのファイルをメディアに書き込むことができます。＊1
書き込み可能なメディアは、CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、DVD-RAM です。
なお、これらのメディアはあらかじめフォーマットしておく必要があります。

＊1 CD-RW、DVD-RW、DVD+RW への書き込みは、「DLA」を使用してください。

参照 CD-RW、DVD-RW、DVD+RW のフォーマット
『図解で読むマニュアル データを CD ／ DVD にコピーする』
《オンラインマニュアル（検索）：データを CD/DVD にコピーしたい》

参照 DVD-RAM のフォーマット
《オンラインマニュアル（検索）：DVD-RAM をフォーマットする》

2 使用できるCD

【 読み出しできるCD 】

対応フォーマットによっては、再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用CD
  8cmまたは12cmの音楽用CDが聴けます。
- フォトCD
  普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
  使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。
- CDエクストラ
  記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

【 書き込みできるCD 】

- CD-R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

CD-Rメディア：最大16倍速
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。

マルチスピードCD-RWメディア ： 最大4倍速
High-Speed CD-RWメディア ： 最大10倍速
Ultra Speed CD-RWメディア ： 最大10倍速

Ultra Speed+CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-Rについて

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカのCD-RW、CD-Rを使用することを推奨します。

  CD-RW（マルチスピード、High-Speed）
  　：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  CD-RW（Ultra Speed）
  　：三菱化学メディア（株）
  CD-R　：太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、（株）リコー、日立マクセル（株）

  これらのメーカ以外のCD-RW、CD-Rを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
  「DLA」でCD-RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

  参照 エラーチェックの方法
  『困ったときは 3章 その他-Q. セーフモードで起動した』
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-Rにデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3 使用できるDVD

【 読み出しできるDVD 】

対応フォーマットによっては、再生ソフトが必要な場合があります。

- DVD-ROM
- DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD-RAM
- DVD+R、DVD+R DL
- DVD+RW

【 書き込みできるDVD 】

お願い

本製品のドライブでは、書き込み8倍速までのDVD-R／DVD+Rメディアと、書き換え4倍速までのDVD-RW／DVD+RWメディア、書き込み2.4倍速までのDVD+R DLメディア、書き換え5倍速までのDVD-RAMメディアを使用することができます。これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

- DVD-R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
  DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
  DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD+R、DVD+R DL
  DVD+R DL（Double Layer）とは、DVD+Rの記録層を2つにして、片面に2層分の記録が可能な規格のことです。
  既存の1層のDVD+Rメディアの記録容量4.7GBの約1.8倍となる、8.5GB分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2の5Mbpsの映像データで、1層のDVD+Rメディアが約2時間分ならDVD+R DLメディアは約3.6時間分の記録が可能になります。
- DVD+RW
- DVD-RAM
  DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、2.1または2.2規格に準拠したメディアを使用してください。

【 DVD-RAMの種類 】

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

＊1　一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。
＊2　2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

お願い DVDについて

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカのメディアを使用することを推奨します。

  DVD-RAM　：松下電器産業（株）、日立マクセル（株）
  DVD-RW　：日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
  DVD-R　：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）
  DVD+RW　：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  DVD+R　：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  DVD+R DL：三菱化学メディア（株）

  これらのメーカ以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
  「DLA」でDVD-RW、DVD+RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。

- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R への書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、DVD の規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約 1GB に満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小 1GB のデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法
『困ったときは 3 章 その他 -Q. セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAM をドライブにセットしたとき、システムが DVD-RAM を認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
  一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販の DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R には「for Data」と「for Video」の２種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成した DVD は、一部の家庭用 DVD ビデオレコーダやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディアを再生するときは、DVD+R DLメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

【 DVD-RAM を使うときは 】

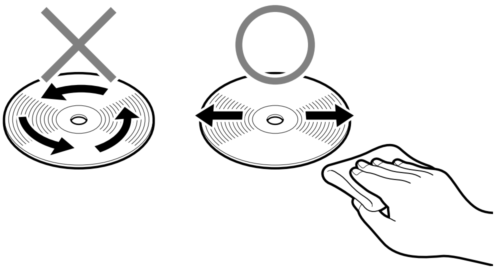
新品の DVD-RAM は、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットについての詳細は《オンラインマニュアル（検索）: DVD-RAM をフォーマットする》を参照してください。

お願い CD ／ DVD の取り扱いと手入れ

CD ／ DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD ／ DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD ／ DVD を読み込むことができなくなります。
- CD ／ DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD ／ DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD ／ DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD ／ DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD ／ DVD のデータ記憶面／レーベル面ともにラベルを貼らないでください。
- CD ／ DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD ／ DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。
  ボールペンなど、先の硬いものを使用しないでください。
- CD ／ DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布でふき取ってください。
  ふき取りは円盤に沿って環状にふくのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状にふくようにし、乾燥した布ではふき取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



4 ブリッジメディアスロット

本製品では次のメディアをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SD メモリカード
- SDIO カード
- メモリースティック
- メモリースティック PRO
- xD- ピクチャーカード
- マルチメディアカード
- スマートメディア

1 SD メモリカードについて

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- 本製品は、1GB までの SD メモリカードを使用できます。
- 本製品は、miniSD メモリカード、miniSD アダプタには対応していません。
- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべての SD メモリカードの動作保証はできません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。
- SDIO カードを使用する場合、必ず本製品で動作が確認されている製品*1 を使用してください。その他の SDIO カードを使用すると、システムの動作が不安定になることがあります。

＊1　2005 年 9 月現在、弊社製 SDIO カード「Bluetooth™ SD カード 2」（型番：PABSD001）、「Bluetooth™ SD カード 3」（型番：PA3370N）のみ対応しています。

新品のSDメモリカードは、SDメモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、SDメモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモリカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、「東芝SDメモリカードフォーマット」またはSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
「東芝SDメモリカードフォーマット」については、《オンラインマニュアル（検索）：SDメモリカードをフォーマットする》をご覧ください。

2 メモリースティックについて

本製品のブリッジメディアスロットでは、Memory Stick Specification V1.3準拠のメモリースティックを取り付けて使用できます。
使用できるメモリースティックの種類は次のとおりです。

- メモリースティック
- メモリースティックPRO

お願い メモリースティックの使用にあたって

- 本製品は、次の容量までのメモリースティックを使用できます。
  - ・メモリースティック　　　：256MBまで
  - ・メモリースティックPRO：1GBまで
- 本製品は、メモリースティックDuo、メモリースティックPRO Duoとメモリースティックアダプタには対応していません。
- 本製品は、著作権保護技術MagicGateには対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。
  したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

新品のメモリースティックは、メモリースティックの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メモリースティックにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メモリースティックを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、メモリースティックを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
メモリースティックを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

3 xD-ピクチャーカードについて

本製品のブリッジメディアスロットでは、xD-ピクチャーカードを取り付けて使用できます。

お願い xD-ピクチャーカードの使用にあたって

- 本製品は、1GBまでのxD-ピクチャーカードを使用できます。
- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。
  したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

新品のxD-ピクチャーカードは、xD-ピクチャーカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、xD-ピクチャーカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、xD-ピクチャーカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、xD-ピクチャーカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。
xD-ピクチャーカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

4 マルチメディアカードについて

本製品のブリッジメディアスロットでは、マルチメディアカードを取り付けて使用できます。

お願い **マルチメディアカードの使用にあたって**

- 本製品は、256MB までのマルチメディアカードを使用できます。
- 本製品は、著作権保護機能付きのマルチメディアカードである SecureMMC は対応していません。
- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。
  したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

新品のマルチメディアカードは、マルチメディアカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、マルチメディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、マルチメディアカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、マルチメディアカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。
マルチメディアカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

5 スマートメディアについて

本製品のブリッジメディアスロットでは、SmartMedia Specification V1.10準拠の、3.3Vのスマートメディア（RAM）を使用できます。

お願い スマートメディアの使用にあたって

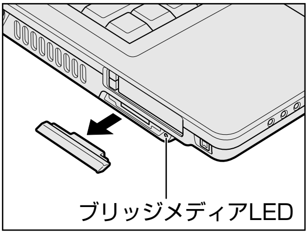
- 本製品は、128MBまでのスマートメディアを使用できます。
- 本製品は、ID機能には対応していません。
- SSFDCフォーラムで規定された仕様以外の機器で使用したスマートメディアは使用できません。
- すべてのスマートメディアの動作確認は行っていません。
  したがって、すべてのスマートメディアの動作は保証できません。
- スマートメディアを使用しない場合は、専用の静電気防止ケースに入れて保管してください。
- スマートメディアの詳しい使いかたなどについては『スマートメディアに付属の説明書』を確認してください。

新品のスマートメディアは、スマートメディアの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、スマートメディアにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、スマートメディアを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、スマートメディアを使用する機器（デジタルカメラなど）でフォーマットを行ってください。
スマートメディアを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

6 メディアのセットと取り出し

ブリッジメディアスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア LED が点灯します。

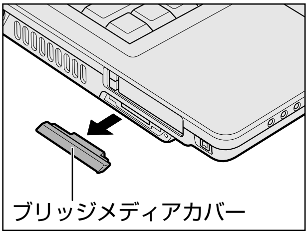


お願い

- ブリッジメディアLEDが点灯中は、電源を切ったり、メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアが壊れるおそれがあります。
- メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアが壊れるおそれがあります。
- スタンバイ中は、メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアを取り出す場合は、必ず使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 ブリッジメディアスロットに取り付けられている、ブリッジメディアカバーを取りはずす

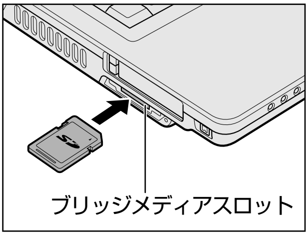


ブリッジメディアカバーはなくさないように保管してください。

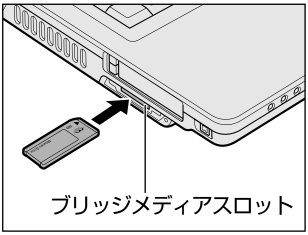
2 メディアの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。

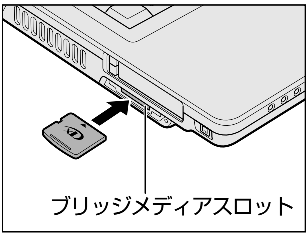
【 SD メモリカード 】



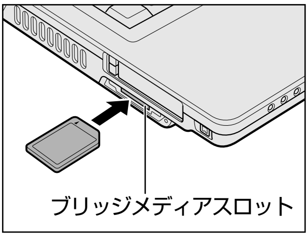
【 メモリースティック 】



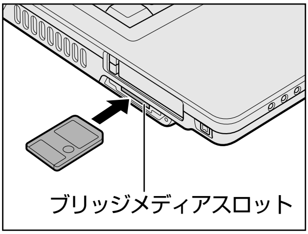
【 xD- ピクチャーカード 】



【 マルチメディアカード 】



【 スマートメディア 】



2 取り出し

1 メディアの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずすメディア）- ドライブを安全に取り外します］をクリックする

XXXX 部分は、メディアの種類によって異なります。

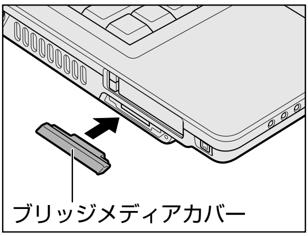
SD メモリカード	:Secure Digital Storage Device
メモリースティック	:MemoryStick2 Device
メモリースティック PRO	:MemoryStickPro2 Device
xD- ピクチャーカード	:XD2 Device
マルチメディアカード	:MMC3 Device
スマートメディア	:SmartMedia2 Device

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 メディアを取り出す

そのまま手で取り出します。

3 ブリッジメディアスロットに、ブリッジメディアカバーを取り付ける



お願い

メディアを取りはずした後は、必ずブリッジメディアカバーを取り付けてください。ホコリやゴミなどがブリッジメディアスロットに入り、故障するおそれがあります。

3 メディアの内容を見る

著作権保護＊[1]を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

＊1 SDメモリカード、メモリースティックの場合

1 ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする

［マイコンピュータ］画面が表示されます。

2 メディアのアイコンをダブルクリックする

SDメモリカード	：SD記憶装置デバイス
メモリースティック	：Memory Stick
メモリースティックPRO	：Memory Stick PRO Card
xD-ピクチャーカード	：XD Picture Card
マルチメディアカード	：MMC Card
スマートメディア	：Smartmedia Card

2章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。
インターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法について紹介します。

1 インターネットへ接続する

インターネットにパソコンをつなぐと、ホームページを閲覧したり、オンラインショッピングやメールのやりとりができるようになります。
インターネットへの接続はADSLや光ファイバーなどを使った高速の「ブロードバンド接続」と一般の電話回線を使った低速の「ダイヤルアップ接続」などがあります。
ここではケーブルの接続やADSL接続とダイヤルアップ接続の一般的な設定方法を説明しています。
接続に必要なネットワーク機器や設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。
インターネット接続の種類や設定については、『できるdynabook 第3章 dynabookをインターネットにつなごう』も参照してください。

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。
コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。
本製品には、ウイルスチェックソフトとして「Norton Internet Security」、「マカフィー・ウイルススキャン（McAfee VirusScan）／マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス（McAfee Personal Firewall Plus）」が用意されています。
『さあ始めよう 3章 ウイルスや不正アクセスを防ぐ』をお読みになり、必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

1 ブロードバンドで接続する

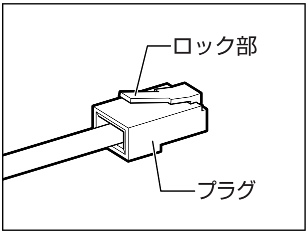
本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN機能が内蔵されています。
本製品のLANコネクタとADSLモデムやケーブルモデムなどをLANケーブルで接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

お願い LAN ケーブルの使用にあたって

- LAN ケーブルは市販のものを使用してください。
- LAN ケーブルをパソコン本体の LAN コネクタに接続した状態で、LAN ケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LAN コネクタが破損するおそれがあります。

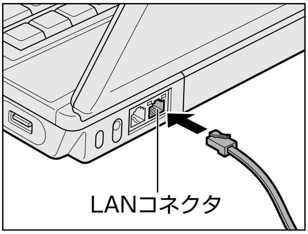
LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格（100Mbps）で使用するときは、必ずカテゴリ 5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。
10BASE-T 規格（10Mbps）で使用するときは、カテゴリ 3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、大きい数字ほど性能が高くなります。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのプラグをパソコン本体の LAN コネクタに差し込む



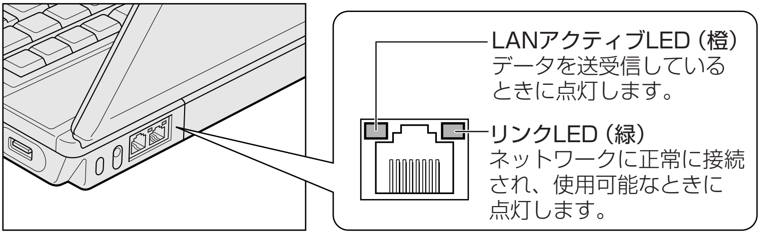
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。
LAN ケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、LAN ケーブルのほうが大きいです。ケーブルを接続するときは、LAN コネクタとモジュラージャックの大きさをよくご確認の上、接続してください。

3 LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

動作状態を確認するには

LAN コネクタの両脇には、LAN インタフェースの動作状態を示す 2 つの LED があります。



2 ADSL接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダに ADSL 接続するための一般的な方法について説明します。接続に必要な設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

プロバイダから、接続に必要な CD-ROM などが支給されている場合は、そちらをご利用ください。

設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ネットワークとインターネット接続］をクリックする

2 ［ ネットワーク接続］をクリックする

3 画面左側の［ネットワークタスク］で［新しい接続を作成する］をクリックする

［新しい接続ウィザードの開始］画面が表示されます。

4 ［次へ］ボタンをクリックする

［ネットワーク接続の種類］画面が表示されます。

5 ［インターネットに接続する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

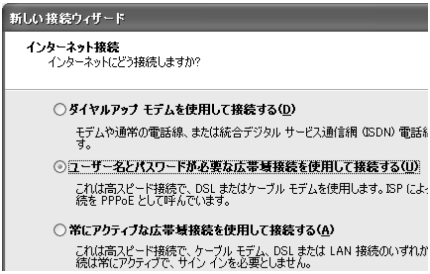
［準備］画面が表示されます。

6 ［接続を手動でセットアップする］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

［インターネット接続］画面が表示されます。

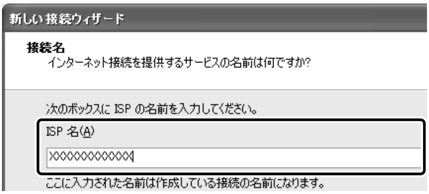
7 **ご契約のタイプにあわせて項目を選択し、[次へ] ボタンをクリックする**

- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が必要な場合：
  (例:フレッツ ADSL など)
  [ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する] をチェックしてください。
- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が不要の場合：
  (例:YahooBB など)
  [常にアクティブな広帯域接続を使用して接続する] をチェックしてください。こちらを選択した場合、以降は表示される画面の指示に従ってください。



[接続名] 画面が表示されます。

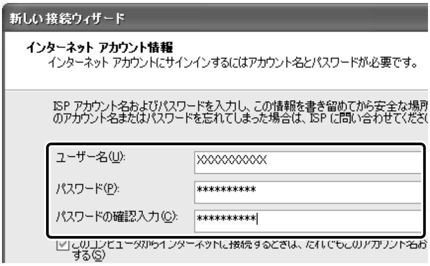
8 **[ISP名] に任意の名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックする**



[インターネットアカウント情報] 画面が表示されます。

9 **[ユーザー名] にプロバイダのアカウント名、[パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする**

アカウント名、パスワードなどについては契約しているプロバイダに問い合わせてください。
ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。



［新しい接続ウィザードの完了］画面が表示されます。

10 ［完了］ボタンをクリックする

［XXXXX へ接続］画面が表示されます。
インターネットへ接続する場合は［接続］ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

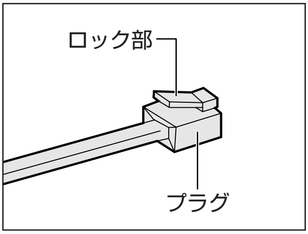
2 ダイヤルアップで接続する

本製品の内蔵モデムを使って、ダイヤルアップでインターネットに接続することができます。
内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。
内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダが V.90 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

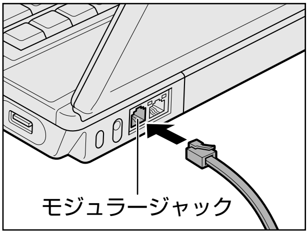
- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 モジュラーケーブルの接続



モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、モジュラープラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックプラグのロック部分を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む



ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。
LAN ケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、モジュラーケーブルのほうが小さいです。ケーブルを接続するときは、LAN コネクタとモジュラージャックの大きさをよくご確認の上、接続してください。

2 もう一方のモジュラーケーブルのプラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

2 ダイヤルアップ接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダにダイヤルアップ接続するための方法について説明します。
設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする

2 ［ ネットワーク接続］をクリックする

3 画面左側の［ネットワークタスク］で［新しい接続を作成する］をクリックする

［新しい接続ウィザードの開始］画面が表示されます。

4 ［次へ］ボタンをクリックする

［ネットワーク接続の種類］画面が表示されます。

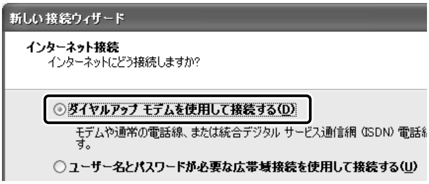
5 **[インターネットに接続する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする**

[準備] 画面が表示されます。

6 **[接続を手動でセットアップする] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする**

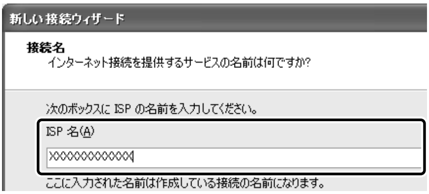
[インターネット接続] 画面が表示されます。

7 **[ダイヤルアップモデムを使用して接続する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする**



[接続名] 画面が表示されます。

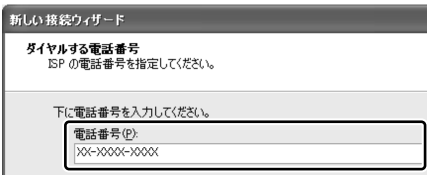
8 **[ISP 名] へ任意の名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックする**



[ダイヤルする電話番号] 画面が表示されます。

9 **[電話番号] にプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ] ボタンをクリックする**

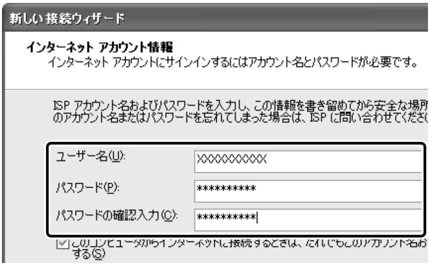
電話番号などについては、契約しているプロバイダに問い合わせてください。



[インターネットアカウント情報] 画面が表示されます。

10 ［ユーザー名］にプロバイダのアカウント名、［パスワード］と［パスワードの確認入力］にパスワードを入力し、［次へ］ボタンをクリックする

アカウント名、パスワードなどについては、契約しているプロバイダに問い合わせてください。
ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。



［新しい接続ウィザードの完了］画面が表示されます。

11 ［完了］ボタンをクリックする

［XXXXX へ接続］画面が表示されます。
インターネットへ接続する場合は［ダイヤル］ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

3 海外でインターネットに接続するときには

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 2 技術基準適合について」を参照してください。
海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。
地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで起動してください。それ以外のユーザが起動しようとすると、エラーメッセージが表示され、起動できないことがあります。

設定方法

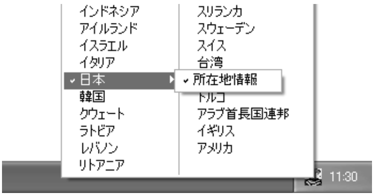
1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Modem Region Select］をクリックする

［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が通知領域に表示されます。



2 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。
その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。
上の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



（表示例）

3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

［地域名を選択した場合］

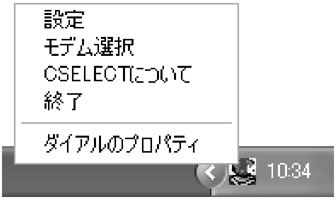
［新しい場所設定作成］画面が表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、［電話とモデムのオプション］画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

［所在地情報名を選択した場合］

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。
選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

その他の設定

1 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【 設定 】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面が表示されます。
場所設定による地域選択	［電話とモデムのオプション］の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【 モデム選択 】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【 ダイアルのプロパティ 】

［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面を表示します。

2 家庭内ネットワークで広がる世界

家族がそれぞれ別のパソコンでインターネットやプリンタを使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN 接続はこんなに便利

家族がそれぞれ自分専用のパソコンを持っていて、家庭内に複数のパソコンがあったり、ひとりで複数のパソコンを持っている場合には、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN 機能を利用すれば、SD メモリカードなどのメディアを使わずにパソコン同士でデータのやりとりができたり、インターネットやプリンタ、スキャナーなどの周辺機器を複数のパソコンで共有して使うことができます。
LAN 機能にはケーブルを使った有線 LAN と、ケーブルを使わない無線 LAN があります。
有線 LAN の機能や LAN ケーブルの接続については、「本章 1-❶ ブロードバンドで接続する」を参照してください。
ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、『ヘルプとサポートセンター』を参照してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 ワイヤレス（無線 LAN）を使う

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。
無線 LAN アクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

1 無線LANモジュールの確認

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに合った説明をご覧ください。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類は、次の手順で確認できます。

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする

2 表示されたメニューから［デバイス］-［開く］をクリックする

3 ［デバイス設定］タブの［デバイスリスト］で［ワイヤレスネットワーク接続］アイコン（ ）を選択し、［詳細］でアダプタ名を確認する

アダプタ名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- 「Atheros AR5005G Wireless Network Adapter」の場合
  IEEE802.11bおよびIEEE802.11gに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Atherosモジュール」または「Atheros IEEE802.11bgモジュール」と呼びます。
- 「Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection」の場合
  IEEE802.11bおよびIEEE802.11gに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Intelモジュール」または「Intel IEEE802.11bgモジュール」と呼びます。

2 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値54Mbps無線LAN対応（IEEE802.11gの場合）＊1
- 規格値11Mbps無線LAN対応（IEEE802.11bの場合）＊1
- 周波数チャネル選択（2.4GHz帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- セキュリティ機能
  （Intelモジュールタイプ　　：WEP128bit、WPA、AES）
  （Atherosモジュールタイプ：WEP152bit、WPA、AES）

＊1 表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

【 無線 LAN の種類 】

無線 LAN は、IEEE802.11b、IEEE802.11g に準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11g では「直交周波数分割多重方式」（Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM）、IEEE802.11b では「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）を採用し、IEEE802.11 に準拠しています。
- Wi-Fi Alliance 認定の Wi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。
  Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN 製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認定マークです。

お願い 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる

  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

  ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

  メールの内容

  などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される

  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

  個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）

  特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す　（なりすまし）

  傍受した通信内容を書き換えて発信する　（改ざん）

  コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する　（破壊）

  などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い 暗号化

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。
そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめします。

参照 WEP機能の設定「本項 5-WEP機能を設定する」

お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録3-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録3-6 ご使用になれる国／地域について」を確認してください。

3 無線LANを使う

⚠ 警告

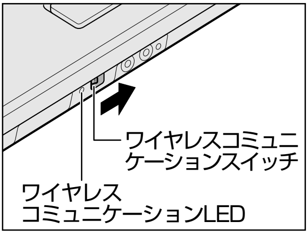
- **パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ること**
ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い

Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、無線LANの一般的な設定方法について説明します（Windows XP Service Pack2が適用された環境の設定方法です）。
ウィザードから設定する場合は、「本項 4 ウィザードから設定する」をご覧ください。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。
無線LAN機能が起動します。
無線LAN機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする

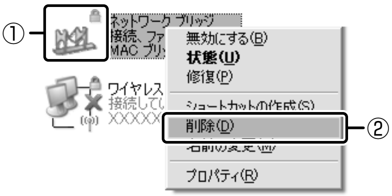
3 ［ ネットワーク接続］をクリックする

4 ［ネットワーク接続］画面に［ネットワークブリッジ］アイコンがあるか確認する

［ネットワークブリッジ］アイコンが表示されている場合は手順5へ、表示されていない場合は、手順7へ進んでください。

5 ［ネットワークブリッジ］アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから［削除］をクリックする②

通常ネットワークブリッジは使用しませんが、設定を行っている場合は削除しないでください。ここでの手順は一般的な無線 LAN の設定方法になります。

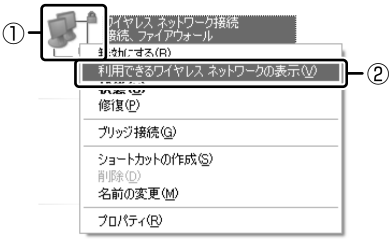


［接続の削除の確認］画面が表示されます。

6 ［はい］ボタンをクリックする

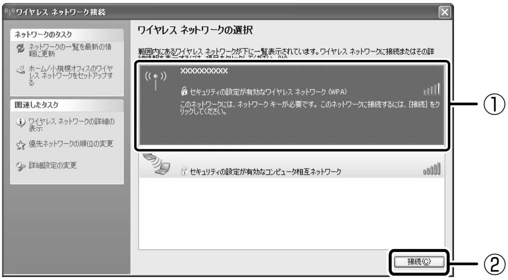
削除には約 30 秒かかります。

7 ［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから［利用できるワイヤレスネットワークの表示］をクリックする②



［ワイヤレスネットワーク接続］画面が表示されます。

8 ［ワイヤレスネットワークの選択］の使いたいネットワークを選択し①、［接続］ボタンをクリックする②



［ワイヤレスネットワークの選択］に使いたいネットワークが表示されない場合は、「本項 4 ウィザードから設定する」をご覧になり、設定を行ってください。

【暗号化（WEP 機能）を設定している場合】

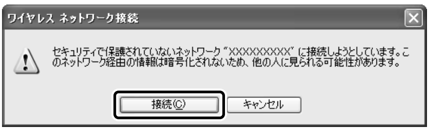
「ネットワーク 'XXXXXX'（接続するネットワーク名）にはネットワークキー（WEP キーまたは WPA キー）が必要です・・・」のメッセージ画面が表示されます。

［ネットワークキー］と［ネットワークキーの確認入力］にキーを入力し、［接続］ボタンをクリックしてください。

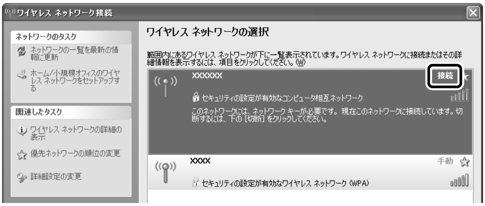


【暗号化（WEP 機能）を設定していない場合】

「セキュリティで保護されていないネットワーク ' XXXXXX '（接続するネットワーク名）に接続しようとしています・・・」のメッセージ画面が表示されます。［接続］ボタンをクリックしてください。



正常に接続されるとネットワーク名の右側に「接続」または「接続済み」と表示されます。



9 ［ワイレスネットワーク接続］画面を閉じる

10 ［ネットワーク接続］画面で［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをダブルクリックする



［ワイヤレスネットワーク接続の状態］画面が表示されます。

11 ［サポート］タブで［IP アドレス］で取得している IP アドレスが正常な範囲のものか確認する

一般的に正常な範囲のアドレスは「192.168.XXX.XXX」の範囲です。



役立つ操作集

通信状態を確認する

［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをクリックすると［ワイヤレスネットワーク接続の状態］画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

4 ウィザードから設定する

ここでは、ウィザードから設定する方法について説明します。
「本項 3 無線 LAN を使う」から設定できない場合などにウィザードから設定してください。

1 ［コントロールパネル］を開き、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする

2 ［ ワイヤレス ネットワーク セットアップ ウィザード］をクリックする

［ワイヤレスネットワークセットアップウィザードの開始］画面が表示されます。

3 ［次へ］ボタンをクリックする

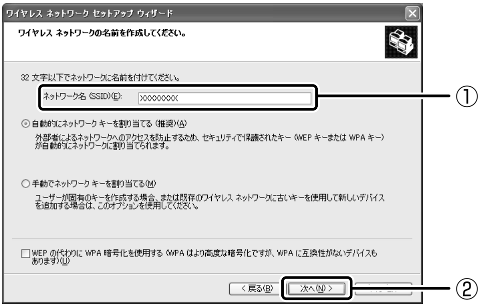


［ワイヤレスネットワークの名前を作成してください。］画面が表示されます。
パソコン本体に無線 LAN ネットワークを設定してある場合は、［タスクを選択してください。］画面が表示されるので、指示に従ってください。
手順４または手順５に進みます。

4 ネットワーク名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

すでに無線 LAN ネットワークの環境がある場合など、ユーザがネットワークキーを任意で入力したい場合は、［手動でネットワークキーを割り当てる］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックしてください。［ワイヤレスネットワークのための WEP キーを入力してください。］画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

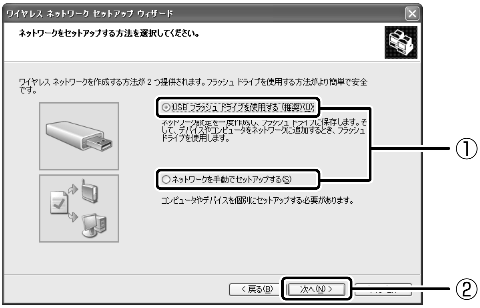
参照 「本項 5- WEP 機能を設定する」



［ネットワークをセットアップする方法を選択してください。］画面が表示されます。

5 目的の方法をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

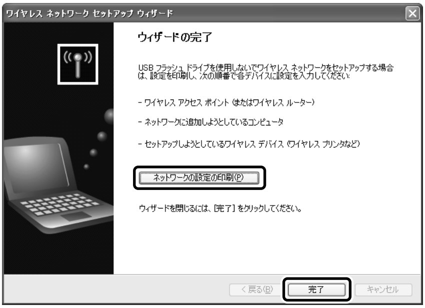
他のコンピュータやデバイスを無線 LAN ネットワークに追加する方法を選択します。



市販の USB フラッシュドライブを使用して、無線 LAN ネットワークを簡単で安全にセットアップしたい場合は、［USB フラッシュドライブを使用する］をチェックしてください。USB フラッシュドライブでセットアップするための画面が表示されるので、指示に従ってください。
それ以外の場合は、［ネットワークを手動でセットアップする］をチェックしてください。

［ウィザードの完了］画面が表示されます。

6 ［完了］ボタンをクリックする



（表示例）

手動で無線 LAN ネットワークのセットアップを行う場合は、［ネットワークの設定の印刷］ボタンをクリックしてください。ネットワークキーなどの設定が記載されている［無題 - メモ帳］画面が表示されます。
他のパソコンを無線 LAN ネットワークに加える場合は、［無題 - メモ帳］に記載されている内容を保存し、設定を行ってください。

5 詳細設定

無線 LAN は、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面で行います。

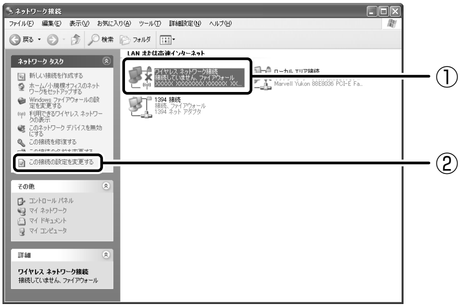
プロパティ画面の表示

1 **［スタート］→［マイコンピュータ］を開き、［その他］の［マイネットワーク］をクリックする**

2 **［ネットワークタスク］の［ネットワーク接続を表示する］をクリックする**

［ネットワーク接続］画面が表示されます。

3 ［ワイヤレスネットワーク接続］を選択し①、［ネットワークタスク］の［この接続の設定を変更する］をクリックする②



［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面が表示されます。



設定を変更したあと、［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

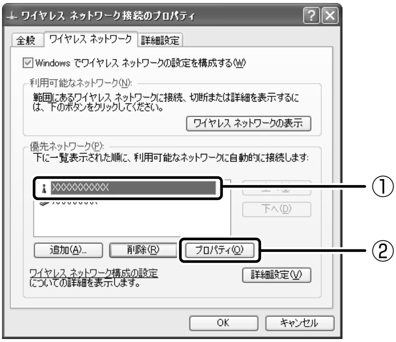
WEP 機能を設定する

WEP（Wired Equivalent Privacy）とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEP での暗号化には 128 ビット、64 ビットの 2 種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 ［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面を開く

参照 「本項 5- プロパティ画面の表示」

2 ［ワイヤレスネットワーク］タブの［優先ネットワーク］でネットワーク名をクリックし①、［プロパティ］ボタンをクリックする②



［XXXXX（ネットワーク名）のプロパティ］画面が表示されます。

3 ［データの暗号化］で ボタンをクリックし、［WEP］を選択する



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
  ［キーは自動的に提供される］がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
  ①［キーは自動的に提供される］のチェックをはずす
  ②［ネットワークキー］と［ネットワークキーの確認入力］にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16 進数
高（128 ビット）	13 文字	26 文字
低（64 ビット）	5 文字	10 文字

ネットワークキーは「＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されます。

5 ［OK］ボタンをクリックする

手順４で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。［OK］ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう１度手順４からやり直してください。

ヘルプの起動

ワイヤレスネットワークの詳しい情報は『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

役立つ操作集

ConfigFree（コンフィグフリー）

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。

参照 ConfigFree の設定方法
《オンラインマニュアル（検索）：ネットワーク設定に便利な操作》

3章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定について説明しています。

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。
周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。
周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- PC カード
- スキャナ
- マウス
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- モデム（本製品では内蔵）
- フロッピーディスクドライブ
- デジタルカメラ
- 増設メモリ＊1

＊1 増設の際は、メモリ購入前に「本章 9 メモリを増設する」をご覧ください。

参照 周辺機器の接続場所は 『さあ始めよう 2 章 1 各部の名前』

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。
- スタンバイ／休止状態中に周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

1 周辺機器を使う前に

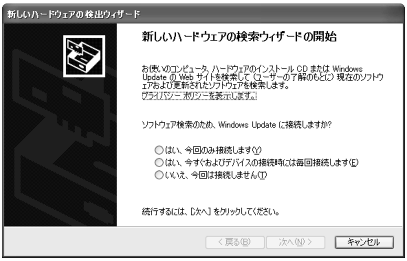
周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合 】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。
周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。
［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合 】

［ハードウェアの追加ウィザード］を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

［ハードウェアの追加ウィザード］は、次のように起動します。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［関連項目］の［ハードウェアの追加］をクリックする

2 フロッピーディスクドライブを接続する

＊ フロッピーディスクドライブ同梱モデルのみ同梱

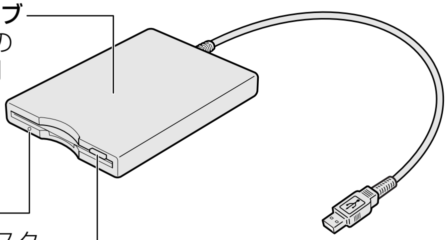
本製品では、USB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。
フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、他のパソコンとデータをやり取りすることができます。

お願い　フロッピーディスクドライブの使用にあたって

- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDD LED が点灯しているとき）に電源を切ったり、USB ケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

1 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブについて説明します。同梱のフロッピーディスクドライブには、専用のドライバは必要ありません。本製品に取り付ければ使用できます。
フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしについては、「本章 4 USB 対応機器を接続する」を確認してください。



役立つ操作集

パソコンをフロッピーディスクから起動する場合

購入時の設定では、ハードディスクドライブからシステムを起動します。
フロッピーディスクドライブから起動したい場合、次の方法で変更できます。

【 常にパソコンをフロッピーディスクドライブから起動する場合 】

① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
② [東芝 HW セットアップ] をクリックする
③ [OS の起動] タブで [OS の起動] を [FDD] が最初になるように設定する
④ [OK] ボタンをクリックする

【 一時的にパソコンをフロッピーディスクドライブから起動する場合 】

① 電源スイッチを押し、電源を入れた直後（「dynabook」画面が表示されている間）に(F12)キーを押す
② [3.取外し可能なデバイス] を(↑)または(↓)キーで選択し、(ENTER)キーを押す

2 フロッピーディスク

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 使用できるフロッピーディスク

本製品に同梱のフロッピーディスクドライブで使用できるフロッピーディスクには3種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量	読み出し / 書き込み	フォーマット
2DD タイプ	720KB	可	不可
2HD タイプ	1.2MB	可	不可
2HD タイプ	1.44MB	可	可

ソニー（株）製の 3.5 型フロッピーディスク（2DD ／ 2HD）を使用することを推奨します。
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクの内容を確認する

1 ［スタート］→［マイ コンピュータ］をクリックする

［マイ コンピュータ］画面が表示されます。

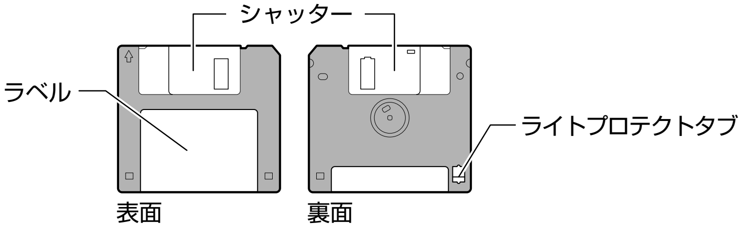
2 ［ 3.5 インチ FD（A:)］をダブルクリックする

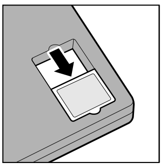
［3.5 インチ FD（A:)］画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3 フロッピーディスクを使う前に

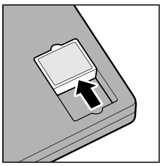
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。





書き込み禁止状態
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

【 フォーマット 】

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットについての詳細は《オンラインマニュアル（検索）：フロッピーディスクをフォーマットする》を参照してください。

お願い フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

お願い フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
  フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
  汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
  記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
  貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

3 PCカードを接続する

目的に合わせたPC（ピーシー）カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PCカードには、次のようなものがあります。

- 無線LANカード
- 外付けHDD用アダプタカード
- SCSI（スカジー）カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード

など

1 PCカードを使う前に

本製品は、PC Card Standard準拠のTYPE Ⅱ対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用しているPCカードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

- ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードの使用を停止した後30分以上たってから、取りはずすことをおすすめします。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2 PCカードを使う

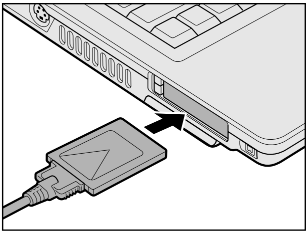
PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

参照 カードの接続および環境の設定方法『PCカードに付属の説明書』

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

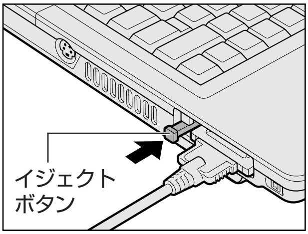
1 PCカードの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずすPCカード）を安全に取り外します］をクリックする

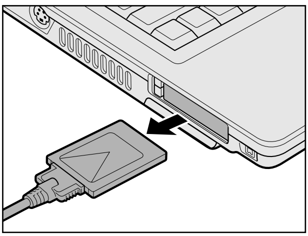
③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 イジェクトボタンを2回押す



1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度「カチッ」と音がするまで押してください。カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

4 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

4 USB対応機器を接続する

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンタ
- USB対応スキャナ
- USB対応ターミナルアダプタ　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。

お願い　操作にあたって

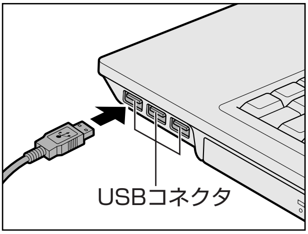
- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

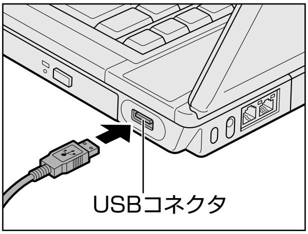
1 USBケーブルのプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【 右側面－手前 】



【 右側面－奥 】



2 USBケーブルのもう一方のプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす USB 対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコンが表示されない USB 対応機器は、手順 1 の①〜③は必要ありません。

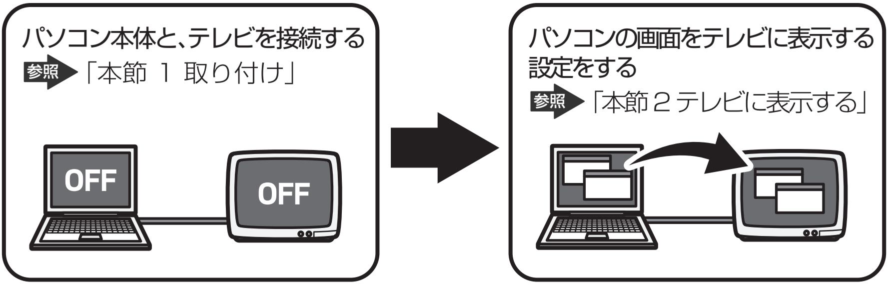
2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

5 テレビを接続する

本製品のS-Video出力コネクタとテレビをS端子ケーブルで接続すると、テレビ画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

【 パソコンの画面を、テレビに表示する 】

「WinDVD」でのDVD再生など、パソコンで視聴／再生している映像を、ご家庭のテレビにも表示させることができます。



メモ

- テレビの代わりに、外部ディスプレイを接続して表示することもできます。

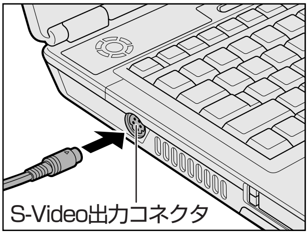
【 接続の前に 】

S映像入力端子（S1/S2映像入力端子）があるテレビを接続できます。
テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。
接続するS端子ケーブルは、市販の4ピンコネクタのケーブルを使用してください。

1 取り付け

テレビとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 **S 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の S-Video 出力コネクタに差し込む**



2 **S 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの S1/S2 映像入力端子に差し込む**

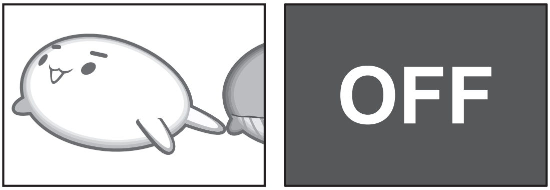
3 **テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる**

音声はパソコンのスピーカで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

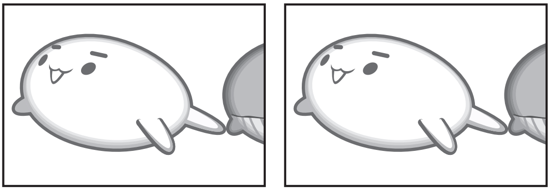
テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

【 本体液晶ディスプレイだけに表示／テレビだけに表示 】

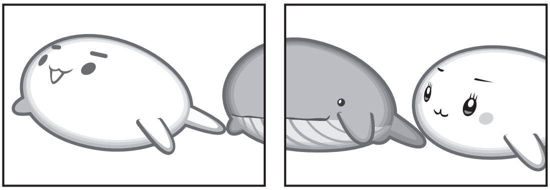


いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

【 本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示 】



- Clone（クローン）表示
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。



- 拡張表示
  ＊方法1でのみ設定できます。
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間

メモ

テレビに表示する場合は、1024×768ドット以下の解像度でご覧ください。

【 方法１－［画面のプロパティ］で設定する 】

1 ［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリックする

2 ［ 画面］をクリックする

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

3 ［設定］タブで［詳細設定］ボタンをクリックする

4 ［Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile］タブで［グラフィック プロパティ］ボタンをクリックする

5 画面左側の［ディスプレイ デバイス］をクリックし、表示する装置を選択する



チェック（ ）がついている項目が現在の表示装置です。

＊ 画面はテレビと外部ディスプレイを接続した場合です。接続している表示装置の名称のみ表示されます。

- 本体液晶ディスプレイだけに表示

  ［ノートブック］をクリックしてください。

- テレビだけに表示

  ［テレビ］をクリックしてください。

  画面左側の［ディスプレイ設定］をクリックして表示される画面の「ビデオ標準」では 11 種類のモードが表示されますが、次の３つのみ使用してください。

  ・NTSC-M（米国仕様の TV 受信機）
  ・NTSC-J（日本仕様の TV 受信機）
  ・PAL-B（ヨーロッパ仕様の TV 受信機）

- 外部ディスプレイだけに表示

  ［PC モニタ］をクリックしてください。

- Clone（クローン）表示

  2 つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

  ①［Intel(R) Dual Display Clone］をクリックする

②表示に合わせた設定をする

項　目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイでClone表示	ノートブック	PCモニタ
本体液晶ディスプレイとテレビでClone表示	ノートブック	テレビ

- 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイまたはテレビの両方にClone（クローン）表示しているとき、［画面のプロパティ］から拡張表示を設定できない場合があります。そのときは、CTRL＋ALT＋F12キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。
①［拡張デスクトップ］をクリックする
②表示に合わせた設定をする

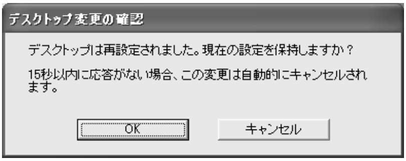
項　目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PCモニタ
本体液晶ディスプレイとテレビで拡張表示	ノートブック	テレビ

メモ

本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイをClone（クローン）表示または拡張表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてご使用ください。
設定は、Clone（クローン）表示または拡張表示に設定したあと、画面左側の［ディスプレイ設定］をクリックし、表示される画面で行います。

6 ［OK］ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



7 ［OK］ボタンをクリックする

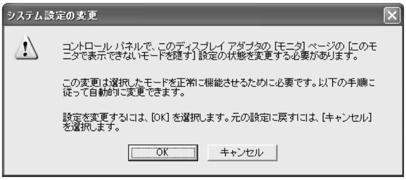
8 ［OK］ボタンをクリックする

9 ［画面のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

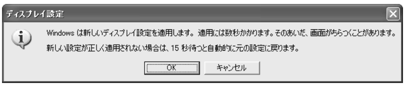
【 メッセージについて 】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、［OK］または［はい］ボタンをクリックしてください。

● ［システム設定の変更］画面



● ［ディスプレイ設定］画面



● ［ディスプレイ設定の確認］画面



【 方法２ − FN ＋ F5 キーを使う 】

メモ

方法２では、同時表示はClone（クローン）表示となり、２つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。拡張表示の設定はできません。

FN キーを押したまま F5 キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。FN キーを押したまま F5 キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、FN キーを離すと表示装置が切り替わります。

- 表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法
  現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN ＋ F5 キーを３秒以上押し続けてください。



＊ 画面はテレビと外部ディスプレイを接続した場合です。LCDまたは接続している表示装置のアイコンのみ表示されます。

- LCD .... 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD ／ CRT ...... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT .... 外部ディスプレイだけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD ／ TV .... 本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV .... テレビだけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

［画面のプロパティ］で「拡張表示」に設定した場合は、FN ＋ F5 キーで表示装置を切り替えられません。「方法１」の手順で表示装置を切り替えてください。
また、複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは［Windowsのログオフ］画面で［ログオフ］を選択して切り替えてください。［ユーザーの切り替え］で切り替えた場合は、FN ＋ F5 キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ユーザアカウントの切り替え『ヘルプとサポート センター』

3 取りはずし

パソコン本体の電源を切ってから、テレビの電源を切り、取りはずしを行ってください。

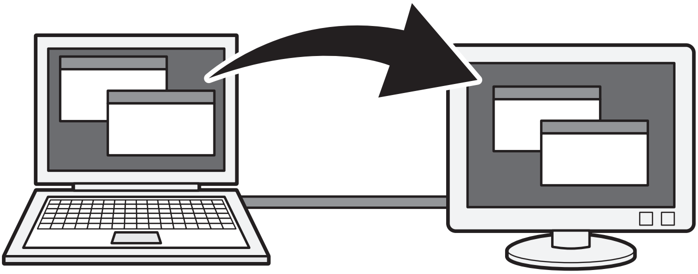
1 パソコン本体とテレビに差し込んであるS端子ケーブルを抜く

【 アプリケーションの利用に関する注意事項 】

- 「InterVideo WinDVD」で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
  起動中は、表示装置を切り替えることができません。
- Clone(クローン)表示しているときにDVD-Videoを再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、本体液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかだけに表示するか、拡張表示に設定してください。

6 外部ディスプレイを接続する

RGB（アールジービー）コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。



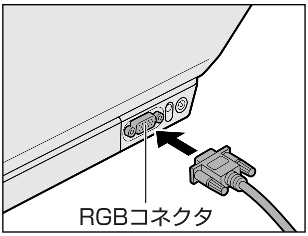
メモ

使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。

1 取り付け

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む



2 外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

2 取りはずし

1 パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切る

2 RGBコネクタからケーブルを抜く

3 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
  - ･Clone（クローン）表示
  - ･拡張表示
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照 表示方法について 「本章 5-2 テレビに表示する」

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

切り替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 1」や「方法 2」を参考にしてください。

参照 表示装置の切替えについて「本章 5-2 テレビに表示する」

メモ

外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも、本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 ビデオモードについて
《オンラインマニュアル（検索）：サポートするビデオモード》

7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK（IEEE1394）（アイリンク アイトリプルイーイチサンキュウヨン）コネクタ（i.LINK コネクタとよびます）に接続します。
i.LINK（IEEE1394）対応機器（i.LINK 対応機器とよびます）には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い　操作にあたって

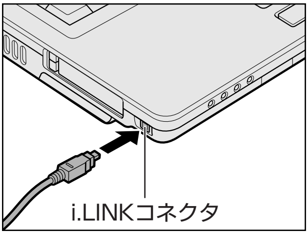
- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときに他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカに問い合わせてください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。
- 取りはずすときは、i.LINK 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

● MO ドライブなど、記憶装置の i.LINK 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグを i.LINK コネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。



2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（）をクリックする

② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコンが表示されない i.LINK 対応機器は、手順 1 の①〜③は必要ありません。

2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム（OS）がWindows XPでi.LINKコネクタがあるパソコン同士をi.LINK（IEEE1394）ケーブルで接続すると、2台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

1 **ケーブルの一方のプラグをパソコン本体のi.LINKコネクタに接続する**

2 **ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器のi.LINKコネクタに接続する**

8 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

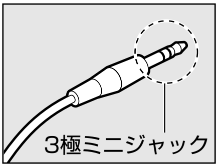
1 マイクロホン

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

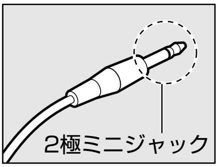
参照 サウンド機能について
《オンラインマニュアル（検索）：音量／音質を調整する》

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。

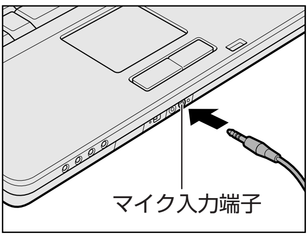


3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

② ヘッドホン

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。ヘッドホンのプラグは、直径3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

参照 サウンド機能について
《オンラインマニュアル（検索）：音量／音質を調整する》

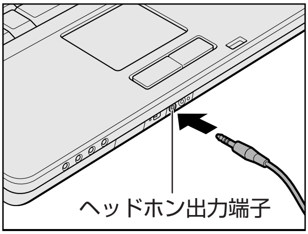
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

① ［スタート］ → ［すべてのプログラム］ → ［アクセサリ］ → ［エンターテイメント］ → ［ボリュームコントロール］ をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

9 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。
本製品には２つの増設メモリスロット（スロットＡとスロットＢ）があり、スロットＡはすでにメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットＢに取り付けたり、スロットＡのメモリを付け替えることができます。
取り付けることのできるメモリの容量は、２つのスロットを合わせて最大2GBまでです。

⚠警 告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠注 意

- **ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないこと**
  火災、感電の原因となります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- **増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行うこと**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないこと**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから行ってください。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 取りはずし」

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

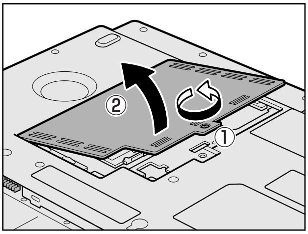
参照 電源の切りかた 『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

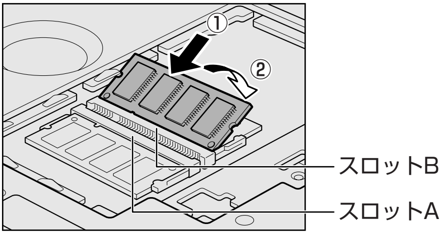
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし「4 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

4 **増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②**



5 **増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②**

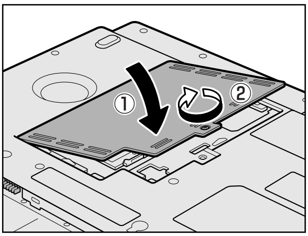


増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

6 **増設メモリカバーをつけて①、手順４でゆるめたネジ 1 本をとめる②**

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



7 **バッテリパックを取り付ける**

参照 バッテリパックの取り付け「4 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた 『さあ始めよう 1章4 電源を切る／入れる』

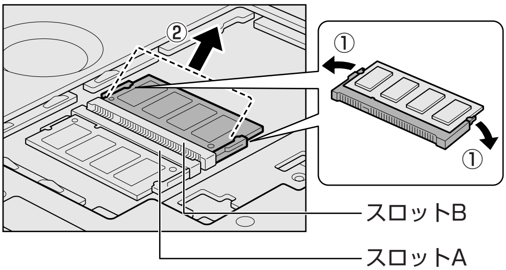
2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし「4章1-❸ バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ1本をゆるめ、カバーをはずす

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順4でゆるめたネジ1本をとめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け「4章1-❸ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「システム情報」で確認することができます。

【 確認方法 】

① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする

② [システムの概要] で [合計物理メモリ] の数値を確認する

４章

バッテリ駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリ使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。
バッテリを充電して、バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを充電してから使用してください。
バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠危 険

- **バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用すること**
  寿命などで交換する場合は、東芝製バッテリ（TOSHIBA バッテリパック：PABAS057）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **バッテリパックを分解・改造しないこと**
  分解・改造すると火災・破裂・発熱の原因となります。指定以外の製品や、分解・改造したものは、安全性や製品に関する保証はできません。

⚠警 告

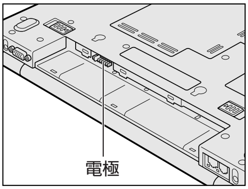
- **別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないこと**
  お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

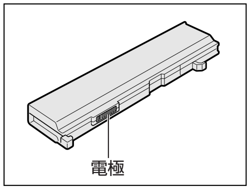
⚠注 意

- **バッテリパックの充電温度範囲内（5 ～ 35℃）で充電すること**
  充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。

お願い

- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。バッテリを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。



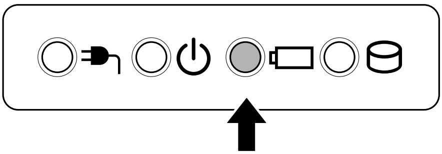


1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

AC アダプタを使用している場合、Battery ▭ LED が点灯します。



Battery LED は次の状態を示しています。

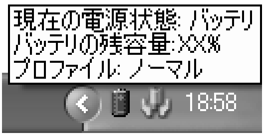
青	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・バッテリが接続されていない（AC アダプタ使用中） ・AC アダプタが接続されていない（バッテリ駆動中） ・バッテリ異常または充電停止 （バッテリを取り付けた状態で AC アダプタ使用中） 異常の場合は、購入店またはお近くの保守サービスに連絡してください。

バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。

参照 バッテリの充電について 「本節 ❷ バッテリを充電する」

2 通知領域の［東芝省電力］アイコンで確認する

通知領域の［東芝省電力］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。



参照 省電力設定について
《オンラインマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

1ヶ月以上の長期にわたり、AC アダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LED や［東芝省電力］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に 1 度は再充電することを推奨します。

参照 再充電について「本節 ❷-2 バッテリを長持ちさせるには」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery ▭ LED がオレンジ色に点滅する（バッテリの残量が少ないことを示しています）
- バッテリのアラームが動作する
  「東芝省電力」の［アクション設定］タブの［アラーム設定］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

①パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery ▭ LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、AC アダプタを接続し電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリ
電源 ON（Power ⏻ LED が青色に点灯）	24 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは5～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが青色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが青色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合、または使用中のアプリケーションによっては、この時間よりも長くかかることがあります。

状態	電源ON	電源OFF
バッテリパック	約12.0時間	約4.0時間

【 使用できる時間 】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook TX/6 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 バッテリ駆動時の処理速度 】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス使用など）を使用する場合は、充分な性能を発揮するために AC アダプタを接続してご使用ください。

2 バッテリを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヵ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。

【 バッテリを節約する 】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

  参照 《オンラインマニュアル（検索）：休止状態》

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

  参照 《オンラインマニュアル（検索）：簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する》

- 省電力のプロファイルに設定する

  参照 《オンラインマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

③ バッテリパックを交換する

バッテリパックの交換方法を説明します。
バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

お願い

キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

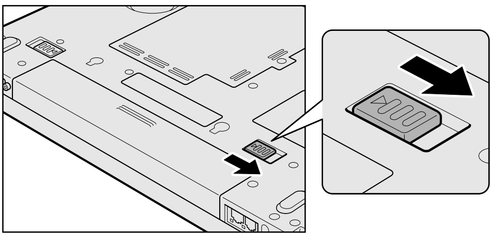
参照 電源の切りかた 『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

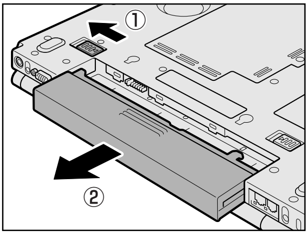
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリ安全ロックを矢印の方向に移動する

ロックが解除され、バッテリ・リリースラッチがスライドできるようになります。

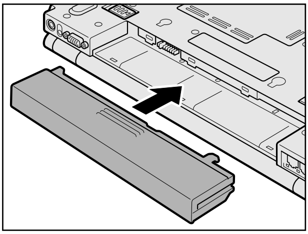


5 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリパックを取りはずす②



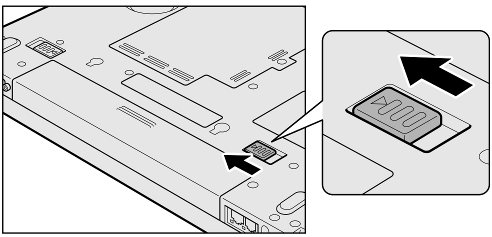
6 交換するバッテリパックを「カチッ」という音がするまで静かに差し込む

バッテリ・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がします。



7 バッテリ安全ロックを矢印の方向に移動する

バッテリパックがはずれないように、バッテリ安全ロックを必ずロック位置にしてください。



5章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1　システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、またはBIOS セットアップで変更するか、項目によっていずれかまたは 2 つの方法があります。

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。
BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照 「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」
パスワードセキュリティの設定 ＊[1]	ユーザパスワード	「東芝 HW セットアップ」の［パスワード］タブ 参照 《オンラインマニュアル（検索）：ユーザパスワード》
	スーパーバイザパスワード	「スーパーバイザパスワードユーティリティ」 参照 《オンラインマニュアル（検索）：スーパーバイザパスワード》
省電力の設定		「東芝省電力」 参照 《オンラインマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

＊ 1　Windows に入ることを制限するパスワードは、Windows 上で設定できます。『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

BIOS セットアップについては「本章 3 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2 東芝 HW セットアップを使う

東芝 HW セットアップは、BIOS セットアップと連動して Windows 上でハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。
パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。
複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 起動方法

1 ［コントロールパネル］を開き、［ プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［ 東芝 HW セットアップ］をクリックする

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

1 ［東芝 HW セットアップ］を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 BIOS セットアップを使う

BIOS(バイオス) セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続コネクタ）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。
  BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリ（時計用バッテリ）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動方法

1 電源を入れた直後（起動時）に F2 キーを押す

起動時に、「dynabook」画面が表示されます。
目安として、この画面表示中に F2 キーを押します。

パスワードを設定している場合は、画面の指示に従って登録したパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。

参照 パスワードについて「本節 ❷ パスワードの設定」

BIOS セットアップが起動します。
起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順 1 をやり直してください。

2 基本操作

基本操作は次のとおりです。

メニューを選択する	←または→ 上段のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。
変更したい項目を選択する	↑または↓ 画面の中で反転している部分が現在変更できる項目です。
サブメニューや設定値の一覧を表示する	ENTER
項目の内容を変更する	SPACE、F5、F6
設定内容を標準値にする	F9 「デフォルト値をロードしますか？」というメッセージが表示されます。「はい」を選択し、ENTERキーを押してください。 パスワードはこの操作をしても削除されません。
設定を保存し、BIOS セットアップを終了する	F10 「設定の変更を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。保存する場合は「はい」を選択し、ENTERキーを押してください。 BIOS セットアップ終了後、Windows が起動します。 保存しない場合は「いいえ」を選択し、ENTERキーを押してください。
［終了］メニューを表示する	ESC サブメニュー表示中は 1 つ前の画面に戻ります。
BIOS セットアップのヘルプを表示する	F1

以上のキー操作で、各項目を設定してください。

3 終了方法

1 ［終了］メニューを表示する

2 終了方法を選択する

3 ENTERキーを押す

BIOS セットアップが終了し、Windows が起動します。

2 パスワードの設定

パスワードの設定は、Windows 上の「東芝 HW セットアップ」または「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で行うことをおすすめします。

参照 「東芝 HW セットアップ」
《オンラインマニュアル（検索）：ユーザパスワード》

参照 「スーパーバイザパスワードユーティリティ」
《オンラインマニュアル（検索）：スーパーバイザパスワード》

1 登録

1 BIOS セットアップを起動する

2 ［セキュリティ］メニューを表示する

パスワードが登録されている場合は、［ユーザパスワードは］または［スーパーバイザパスワードは］に「設定」と表示されます。

3 カーソルバーを［ユーザパスワード設定］または［スーパーバイザパスワード設定］に合わせ、ENTERキーを押す

パスワード設定画面が表示されます。

4 ［新しいパスワードを入力して下さい。］にパスワードを入力する

パスワードは 8 文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝 HW セットアップ」の場合と同様です。
入力したパスワードはセキュリティ保護のため、表示されません。よく確認してから入力してください。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

5 ENTERキーを押す

［新しいパスワードを確認して下さい。］にカーソルバーが移動します。

6 もう 1 度新しいパスワードを入力する

パスワードは手順４と同じパスワードを入力してください。

7 ENTERキーを押す

［セットアップ通知］画面が表示されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。
ENTERキーを押して、手順４からやり直してください。

8 ENTERキーを押す

パスワードが設定され、登録した［ユーザパスワードは］または［スーパーバイザパスワードは］に「設定」と表示されます。

メモ

ここで設定したパスワードは、パソコンまたはBIOSセットアップを起動する場合に使用します。インスタントセキュリティ状態を解除する場合はWindowsのログオンパスワードを使用します。

2 変更／削除

1 BIOS セットアップを起動する

パスワード入力画面が表示されます。

2 パスワードを入力し、ENTERキーを押す

スーパーバイザパスワードを変更／削除する場合は、スーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードを入力すると、変更／削除できるのはユーザパスワードのみです。

3 ［セキュリティ］メニューを表示する

4 カーソルバーを、削除する［ユーザパスワード設定］または［スーパバイザパスワード設定］に合わせ、ENTERキーを押す

5 ［現在のパスワードを入力して下さい。］に登録してあるパスワードを入力する

パスワードは画面で確認できません。

6 ENTERキーを押す

入力したパスワードが登録されているパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。ENTERキーを押してもう１度入力してください。

パスワードの入力エラーが３回続いた場合は、以後パスワードの入力ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう１度設定を行ってください。

7 ［新しいパスワードを入力して下さい。］に新しいパスワードを入力する

パスワードを削除する場合は、何も入力しません。

8 ENTERキーを押す

9 ［新しいパスワードを確認して下さい。］に手順７と同じパスワードを入力する

パスワードを削除する場合は、何も入力しません。

入力したパスワードが手順７で入力したパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。ENTERキーを押して手順7からやり直してください。

10 ENTERキーを押す

［セットアップ通知］画面が表示されます。

11 ENTERキーを押す

パスワードが変更されます。

新しいパスワードを入力しなかった場合はパスワードが削除され、［ユーザパスワードは］または［スーパバイザパスワードは］に「クリア」と表示されます。

スーパーバイザパスワードを削除すると、ユーザパスワードも同時に削除されます。

3 パスワードの入力

パスワードが設定されている場合、パソコンまたは BIOS セットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンまたは BIOS セットアップを起動します。

1. **設定したとおりにパスワードを入力し、ENTER キーを押す**
   Arrow Mode LED、Numeric Mode LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
   パスワードの入力ミスを 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

メモ

BIOS セットアップの設定を変更する場合は、スーパーバイザパスワードを入力して起動してください。ユーザパスワードを入力して起動すると、変更できる項目に制限があります。

4 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

付録

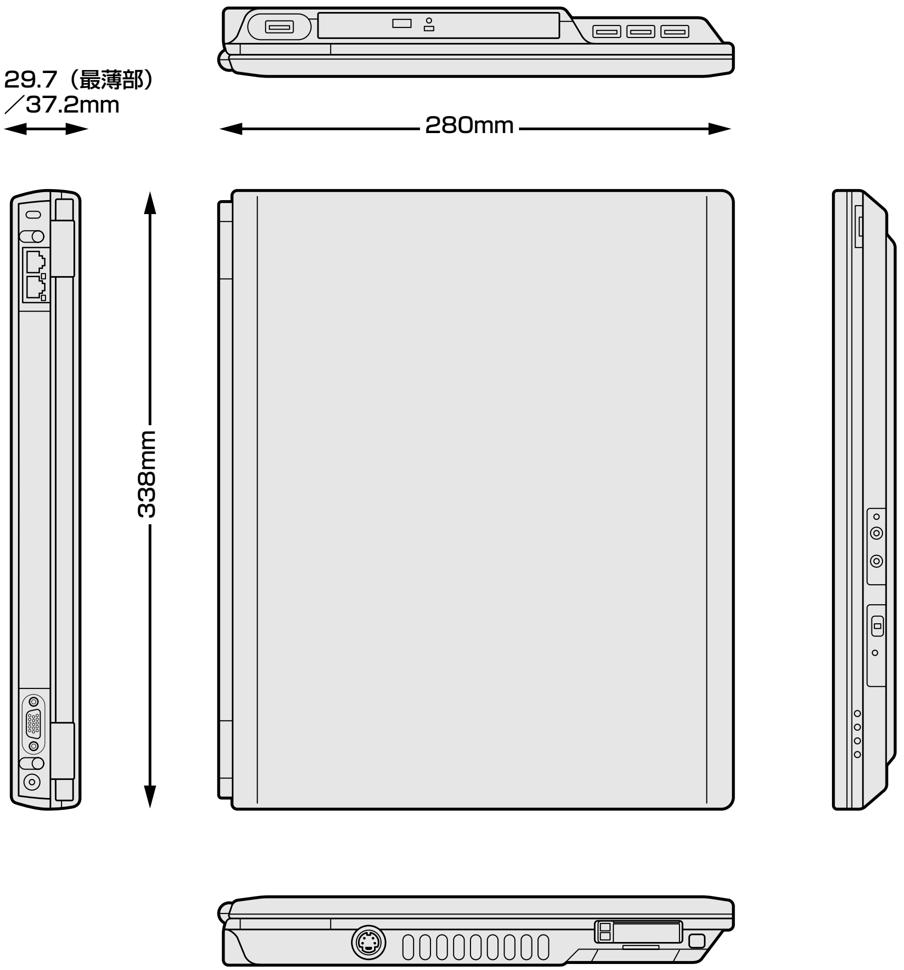
本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

1　本製品の仕様

仕様についての詳細は、別紙の『dynabook TX/6 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

1 外形寸法図

＊数値は突起部を含みません。



2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 『困ったときは 3 章 その他
-Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

参照 省電力設定について
《オンラインマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

FCC information

Product name : dynabook TX/6 series
Model number : PSA80 series

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ❑ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ❑ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ❑ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ❑ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, PRT connecter, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity

CE

TOSHIBA declares, that the product: PATX6** conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。	認定番号 A02-0604JP

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2005年9月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

参照 設定について
《オンラインマニュアル（検索）：海外でインターネットに接続したい》

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

＊内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem’s label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353-11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.

- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.

- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

付録

b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic DVD スーパーマルチドライブ UJ-840
（DVD スーパーマルチドライブ DVD+R 2 層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

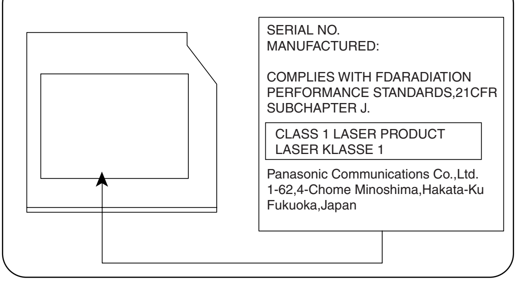
⚠注意

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



TEAC DVDスーパーマルチドライブ DV-W28EA（DVDスーパーマルチドライブ DVD+R 2層式メディア対応）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注意

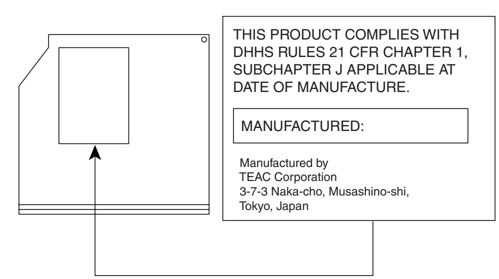
1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



3 無線LANについて

1 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz（2400-2497MHz）
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る" 障害物" がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照）。各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【 無線 IEEE802.11 チャネルセット 】

IEEE802.11b／IEEE802.11g（2.4GHz）の場合

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 ＊1
11	2462
12	2467 ＊2
13	2472 ＊2
14	2484 ＊2

＊1 購入時、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

＊2 これらのチャネルが使用可能かどうかは、使用する無線 LAN モジュールによって異なります。使用可能チャネルについては、「本節 6 ご使用になれる国／地域について」を参照してください。

無線 LAN をインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。

付録

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz ～ 2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz ～ 2,470.75MHz と重複しています。

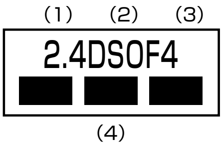
【 1. ステッカー 】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

> この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
>
> 1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
> 2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
> 3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【 2. 現品表示 】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。



（1）2.4　：2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
（2）DS　：変調方式が DS-SS 方式であることを示す。
　　 OF　：変調方式が OFDM 方式であることを示す。
（3）4　：想定される与干渉距離が 40m 以下であることを示す。
（4）■ ■ ■：2,400MHz ～ 2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【 3. 東芝PCダイヤル 】

受付時間　：9:00～19:00（年中無休）

電話番号　：0120-97-1048＊

＊2005年9月13日（火）から。2005年9月12（月）までは0570-00-3100にお問い合わせください。

4 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

【 Intelモジュールタイプ 】

無線設備名：WM3B2200BG

株式会社　ディーエスピーリサーチ　　認証番号：D03-0064JPB

【 Atherosモジュールタイプ 】

無線設備名：AR5BMB5

株式会社　ディーエスピーリサーチ　　認証番号：D04-0022003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection／Atheros AR5005G Wireless Network Adapter製品は、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用する無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B/G)（無線LAN標準規格(版数 B/G)）
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証

付録

【 健康への影響 】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection ／ Atheros AR5005G Wireless Network Adapter 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection ／ Atheros AR5005G Wireless Network Adapter 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection ／ Atheros AR5005G Wireless Network Adapter 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit étre prét à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.
To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empecher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit etre utilize a l'interieur et devrait etre place loin des fenetres afin de Fournier un ecram de blindage maximal. Si le matriel (ou son antenne d'emission) est installe a l'exterieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The tern "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical spacifications were met.

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/: Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig.Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise.Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1- 7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France.Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure á suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage.　The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

Europe - Copy of Original Declaration of Conformity（Atheros モジュールタイプ）

Declaration of Conformity

We, the undersigned,

Company	TOSHIBA Corp. Personal Computer & Network Company
Address, City	2-9, SUEHIRO-CHO, OME, TOKYO, 198-8710
Country	JAPAN
Phone number	+81 428 34 1445
Fax number	+81 428 30 7432

certify and declare under our sole responsibility that the following equipment:

Product description	2.4GHz Wireless LAN MiniPCI Module
Manufacturer	ASKEY Computer Corp.
Type	AR5BMB5

is tested to and conforms with the essential requirements for protection of health and the safety of the user and any other person and Electromagnetic Compatibility, as included in following standards:

Standard	Issue date
EN 301 489-17 EN 60950	Version 1.2.1 2000

and is tested to and conforms with the essential radio test suites so that it effectively uses the frequency spectrum allocated to terrestrial/space radio communication and orbital resources so to as to avoid harmful interference, as included in following standard:

Standard	Issue date
EN 300 328-2	Version 1.4.1

and therefore complies with the essential requirements and provisions of the **Directive 1999/5/EC** of the European Parliament and of the council of March 9. 1999 on Radio equipment and Telecommunications Terminal Equipment and the mutual recognition of their conformity and with the provisions of Annex II (Conformity Assessment procedure referred to in article 10).

The technical documentation as required by the Conformity Assessment procedure is kept at the following address:

Company	Toshiba Europe GmbH
Address, City	Hammfelddamm 8, 41460 Neuss
Country	Germany
Phone number	+49 (0)2131-158-425
Fax number	+49 (0)2131-158-582

TCF reference nr.	Toshiba AR5BMB5
Drawn up in	Ome
Date	28 November 2004
Name and position	Mr. Koichi Kaji

付録

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection ／ Atheros AR5005G Wireless Network Adapter or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection／Atheros AR5005G Wireless Network Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection ／ Atheros AR5005G Wireless Network Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Wireless LAN has been tested with Bluetooth transceiver for colocation requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.
The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.
Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

6 ご使用になれる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。
  これらの国／地域以外では使用できません。

【 Atheros IEEE802.11bgモジュールタイプ 】

- 802.11gモードではアドホック接続は使用できません。
- 802.11bモードでのアドホック接続は、チャネル1～チャネル11で使用できます。
- 802.11bモードおよび802.11gモードでのインフラストラクチャ接続は、チャネル1～チャネル11で使用できます。

● 802.11b/g（2.4GHz）

アイスランド	スイス	フィンランド
アイルランド	スウェーデン	フランス
アメリカ合衆国	スペイン	ベルギー
イギリス	スロバキア	ポーランド
イタリア	スロベニア	ポルトガル
エストニア	チェコ	マルタ
オーストラリア	デンマーク	ラトビア
オーストリア	ドイツ	リトアニア
オランダ	日本	リヒテンシュタイン
カナダ	ニュージーランド	ルクセンブルク
キプロス	ノルウェー	
ギリシャ	ハンガリー	

【 Intel IEEE802.11bg モジュールタイプ 】

- 802.11b および 802.11g モードでのアドホック接続は、チャネル 1 ～チャネル 11 で使用できます。
- 802.11b および 802.11g モードでのインフラストラクチャ接続は、チャネル 1 ～チャネル 11 で使用できます。

● 802.11b/g（2.4GHz）

アイスランド	シンガポール	フィンランド
アイルランド	スイス	フランス
アメリカ合衆国	スウェーデン	ブルガリア
イギリス	スペイン	ベルギー
イタリア	スロバキア	ポーランド
インド	スロベニア	ポルトガル
インドネシア	チェコ	香港
ウクライナ	中国	マルタ
エストニア	デンマーク	マレーシア
オーストラリア	ドイツ	ヨルダン
オーストリア	トルコ	ラトビア
オマーン	日本	リトアニア
オランダ	ニュージーランド	リヒテンシュタイン
カナダ	ノルウェー	ルクセンブルク
キプロス	ハンガリー	ロシア
ギリシャ	フィリピン	

さくいん

ワ